

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

事業所名 スイッチオンネクストのぞみ

保護者等数(児童数) 5

回収数 5

割合 100 %

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	100	0	0	0	落ち着ける環境だ 広い	
	2	職員の配置数や専門性は適切である	60	20	0	20	看護師がいるので安心	看護師の配置は継続する
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100	0	0	0	絵カードがたくさん貼ら れている	本人にわかりやすい構造化された環境になる様に工夫し調整する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	80	0	0	20	消毒をきちんとされてい る	毎日の掃除、消毒、整理整頓を 継続して行う。
適切な支援 の提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	80	20	0	0	最近、きちんとし始めて いる	客観的に分析された支援計画を 作成していく。
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100	0	0	0	リハビリスタッフにも見 てもらえ、子供の成長 が自宅で感じられる	児童発達支援ガイドラインに沿った支援内容を設定していく。
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100	0	0	0		引き続き、支援計画に沿った支援が行われる様にしていく。
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	60	20	0	20	どちらともいえない	固定化しない様に工夫していく。
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	20	0	60	20		
適切な支援 の提供	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	100	0	0	0	きちんと受けた	引き続き、説明していく。
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた	100	0	0	0	いつも丁寧である 後から聞く事もできる	引き続き、説明していく。
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われている	20	0	20	60	ペアトレの機会があると 嬉しい	ペアトレができる様にしていく。
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	100	0	0	0	LINE等で密に連絡が取 れる 対応もしっかりしている	様々なツールを使い、共通理解 できる様にしていく。
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	60	0	20	20	助言があれば教えて欲 しい	面談を行っていく。
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	40	0	40	20	イベントはよく開催され ている	保護者会等の開催に努めたい。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	80	0	0	20		相談等に迅速かつ適切に対応し ていく。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	80	0	0	20	しっかりと連絡してくれ ている	引き続き、配慮していく。

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年 1月 31日

事業所名 スイッチオンネクストのぞみ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100	0		
	2	職員の配置数は適切である	83	17		
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	66	34	絵カードを活用している。	今後もわかりやすく構造化された環境に配慮していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100	0	毎日、掃除、消毒、整理整頓を行い、空気清浄機も配置している。	今後も、掃除、消毒、整理整頓を毎日行っていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	83	17	必要時、話し合いを持っている。	定期的に話し合いを持ち、スタッフの参画を促していく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100	0	保護者の意向は真摯に向き合い対応している。	今後も、保護者の意向をすくい上げ、きちんと対応していく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	50	50		現在、実施に向けて作業中である。結果をホームページに公表する予定。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	23	67		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100	0	月1回、施設内研修を行っている。	今後も、施設内研修を充実していく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100	0	保護者のニーズを把握する様に努めている。	適切なアセスメントを行い、ニーズを客観的に分析した上で支援計画を作成していく。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	23	67	アセスメントツールは利用している。	アセスメントツールを標準化していく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	83	17	ガイドラインを参考にしている。	ガイドラインを引き続き利用し、適切で具体的な支援内容になる様に努める。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	83	17	支援が行われている。	今後も、計画に沿った支援が行える様にしていく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	67	23	NS、OT等と行っている。	今後も、継続して行っていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100	0	ネット等を活用している。	新しいプログラムを把握し活用できる様にしていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	83	17	個別活動は充実している。	集団活動と組み合わせられる様にしていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100	0	毎朝、朝の会を行い、確認している。	今後も継続して行っていく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	23	67	適宜、行う様になっている。	毎日、行える様に考える。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100	0	記録はしっかりと行っている。	日々の記録の徹底を継続していく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100	0	1回目は行えた。	定期的にモニタリングを行い、見直しの必要性を判断していく。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100	0		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	23	67		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	50	50	学校との連携は行っている。	他の関係機関との連携も図っていききたい。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	23	67		主治医との連携も図っていききたい。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	50	50	こども園のお迎え時に共有している。	今後も継続して行っていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	50	50	お迎え時に共有を図っている。	今後も継続して行っていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	17	83		支援センターとの連携を図っていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	100		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	50	50	協議会には必ず参加している。	こども部会には積極的に参加していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100	0	ノートやLINEを活用している。	今後も、共通理解ができる様に行っていく。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	50	50		家族支援プログラムの充実を図る。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100	0	契約時に行っている。	今後も継続して行っていく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100	0	支援計画の同意を得ている。	しっかりと説明をしていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100	0	適宜、行う様になっている。	定期的に行っていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100	0	親子交流会を開催した。	継続して開催していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100	0	迅速かつ適切に対応できる様にLINEを活用している。	引き続き、迅速かつ適切に対応していく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	50	50	機関紙を渡し始めた。	機関紙等を発行し発信していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100	0	十分に配慮し注意している。	引き続き、十分に注意していきたい。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100	0	様々なツールを使い、行っている。	引き続き、配慮して行っていく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	100		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	23	67	マニュアル作成は行っている。	周知、訓練を行っていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	23	67		訓練を行っていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	83	17	事前に聞き取り把握している。	引き続き、事前に把握していく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	50	50		アレルギーがある場合は医師の指示に基づく対応を行う。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	67	23	事故報告書を作成し共有をしている。	全員に周知できる様にしている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100	0	研修を行っている。	引き続き、研修を行っていく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100	0		身体拘束が必要な場合は、事前に説明し、了解を得て、支援計画に記載していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和3年1月31日

事業所名 スイッチオンネクストのぞみ

保護者等数(児童数) 7

回収数 5

割合 71 %

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	100	0	0	0		
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	100	0	0	0		
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	100	0	0	0		
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	60	40	0	0		客観的に分析した支援計画を作成する様に努めたい。
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	40	60	0	0		固定化しない様に工夫していきたい。
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	0	60	40	0		
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	100	0	0	0		
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	80	20	0	0		共通理解ができる様に努めたい。
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	80	20	0	0		
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	80	20	0	0	もう少し交流会を増やしてほしい	できる限り、交流会を開催していきたい。
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	80	20	0	0		周知・説明し、迅速かつ適切に対応していきたい。
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	60	40	0	0		情報伝達の配慮ができる様にしていきたい。
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	60	20	20	0		ホームページ等で発信していきたい。
非常時 等の 対応	14	個人情報に十分注意しているか	80	20	0	0		引き続き、注意していく。
	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	60	20	20	0		保護者に周知できる様にしていきたい。
満足 度	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	60	40	0	0		訓練を行いたい。
	17	子どもは通所を楽しみにしているか	100	0	0	0		
	18	事業所の支援に満足しているか	100	0	0	0		

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせる実施されることが想定されている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3 年 1 月 31 日

事業所名 スイッチオンネクストのぞみ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100	0		
	2	職員の配置数は適切である	83	17		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	83	17		
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	83	17	適宜、話し合いを行い、職員が参画できる様にしている。	引き続き、職員が参画できる様に、話し合いを持ちたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100	0		アンケートを元に意向を把握し、業務改善に繋げていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	83	17		今後、ホームページで公開する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	17	83		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100	0	月1回、施設内研修を行っている。	引き続き、施設内研修を継続して行っていく。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100	0		アセスメントを適切に行い、ニーズを客観的に分析した上で、サービス計画を作成していく。
適切な 支援の 提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	66	34	アセスメントツールを使用している。	アセスメントツールを標準化していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100	0	NsやOT等と話し合っている。	引き続き、チームで行っていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100	0		活動プログラムが固定化しない様に工夫していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	66	34		平日、休日、長期休暇に合わせて、課題をきめ細かく設定して支援していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100	0		個別活動と集団活動を組み合わせたサービス計画を作成していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100	0	毎朝、朝の会を開き行っている。	引き続き、朝の会を継続して行っていく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	66	34		支援終了後も話し合いが持てる様に工夫していく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100	0	記録はしっかりと行っている。	記録を元に、支援の検証・改善につなげていく。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100	0	1回目のモニタリングは行った。	引き続き、定期的に行う様にしていく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	66	34		ガイドラインに基づいた支援を行っていく。

関係機関 や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100	0		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	83	17	電話や送迎時に行っている。	引き続き、学校との情報共有を行っていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	66	34		主治医との連絡体制を整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	66	34		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	83	17		今後、移行する場合は、支援内容等の情報提供を行っていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	34	66		今後、専門機関と連携し、助言等を受けていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	100		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100	0	協議会には必ず参加している。	今後も協議会に積極的に参加していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100	0	ノートやLINEを活用し共通理解に努めている。	引き続き、日頃の子どもの状況を伝えあい、共通理解に努める。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	50	50		ペアレント・トレーニング等の支援を行っていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100	0	契約時に説明している。	今後も説明していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100	0	相談には応じ、適切な助言を行っている。	引き続き、悩み等の相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100	0	親子交流会を開催している。	親子交流会が盛り上がる様に支援していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100	0	苦情には迅速かつ適切に対応している。	引き続き、苦情に対して、迅速かつ適切に対応していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	66	34	機関紙を渡している。	適宜、情報を発信していく。
	35	個人情報に十分注意している	100	0	十分に注意している。	引き続き、個人情報に十分注意していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100	0		引き続き、意思の疎通や情報伝達のための配慮を行っていく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	100		

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100	0	マニュアルは作成している。	保護者にも周知していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	66	34		訓練を行う。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100	0	研修を行っている。	引き続き、研修を行う。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100	0		身体拘束を行う場合が出た場合は、必ず事前に十分説明し了解を得た上で、サービス計画に記載していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	66	34		アレルギーがある子どもが出た場合は、医師の指示書に基づいた対応を行っていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100	0	事故報告書を作成している。	引き続き、事故報告書を作成していき、共有を図っていく。